

## 平成25年度4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成25年4月4日（木）午後1時30分～午後2時  
場所 市役所2階第1委員会室  
出席 市政記者クラブ12社

### 会見内容

#### 1. 話題提供（3項目）

#### 1. 平成25年度釧路港への旅客船の入港予定について

- 今年度、釧路港へのクルーズ客船の寄港は、5隻が6回入港する予定となっております。今年度の特色は、4月20日（土）に寄港する「フォーレンドム」他2隻の船が初入港であることと、5隻のうち4隻が外国船籍であることです。
- 近年は船の大型化が進んでおり、4月に寄港する「フォーレンドム」が61,214トン、6月と7月に寄港する「サン・プリンセス」が77,441トン、8月に寄港する「コスタ・ビクトリア」が75,166トンあり、1,400名から2,000名ほどの乗船客とクルーの皆様が来られます。
- こうした大勢のお客様の中には外国の方も多数おりますので、釧路国際交流ボランティアの会の皆さまにもご協力いただき、楽しい釧路の思い出を持ち帰っていただきたいと思っております。
- 一方、国内の船としては、9月7日に「ぱしふいっくびいなす」の寄港があります。クルーズの名称が釧路大漁どんぱく花火と三陸復興国立公園クルーズということで、釧路市のイベントを目的としたクルーズが初めて実現いたしました。  
洋上で見る三尺玉は、心に残るクルーズの旅になるものであり、クルーズ客船の誘致にあたっては、豊かな自然環境を背景とした観光素材だけではなく、食やイベントなど色々な要因を持った提案をしてみたいと思います。
- 釧路港に寄港するクルーズ客船は、今後、大幅な増加が見込まれており、外国船籍も多くなってきております。  
市民団体や関係機関の皆さまとご相談しながら、新たな受入体制の構築を図るとともに、民間企業の皆さまと連携し、魅力的なインセンティブを提供することにより、乗船客やクルーの方々の地元での消費拡大や、さらなる客船誘致に取り組んでいきます。

- また、耐震・旅客船ターミナルと周辺の施設や観光施設などを紹介する多言語の動画を作成し、ユーチューブなどで配信することで、国内外のクルーズ客船関係者や、年々拡大するクルーズ客層に対するPR活動を実施していきます。

## 2. オーストラリア・ポートスティーブンス市民訪問団の来釧について

- 4月19日（金）から22日（月）まで、姉妹湿地提携都市ポートスティーブンスの市民のみなさんが来釧します。

オーストラリアの市民団体「ポートスティーブンス姉妹都市委員会」が企画・実施するもので、ホームステイを通じた市民交流を目的として、数年おきに日本を訪れ、釧路市をはじめ各地の提携都市を訪ねてきました。5回目となる本年は、テッド・ティンダル会長をはじめ7名の訪問団となる予定です。

- 東日本大震災の際には、同委員会並びにポートスティーブンス市より、被災地の人道支援を目的として、1,000 オーストラリアドル（約7万8千円）の寄付を日本赤十字社北海道支部釧路市地区に頂戴しています。

この時のお礼を今回直接申し上げる機会を得て、とてもうれしく思っています。

- 滞在中は、市による歓迎会やホームステイ交流が予定されています。関連事業としては、市立釧路図書館を会場に、4月13日（土）から21日（日）まで、アート展を開催するほか、4月20日（土）には、読み聞かせの会を開催し、ポートスティーブンス姉妹都市委員会より、昨年、図書館に寄贈された写真絵本を英語と日本語で紹介します。

また、市民グループ「ネルソン・キルトクラブ」が作ったコアラのキルトなど、姉妹湿地の生き物を紹介する楽しい作品が会場を飾ります。訪問団の来釧を機に、子供たちをはじめ市民のみなさんに、広くポートスティーブンスや姉妹湿地を紹介する予定です。入場はいずれのイベントも無料となっています。

ホームステイでは、釧路国際交流ボランティアの会会員のみなさんのご家庭に宿泊します。

- また、平成19（2007）年に、釧路からポートスティーブンスを訪れた姉妹湿地訪問団から生まれた市民グループ「ラブリー・オーストラリア・クラブ」が、歓迎イベントを企画しているとのこと。環境・交流都市釧路のホスト役を務めていただくことから、ご協力に深く感謝しております。

- 平成6（1994）年に、姉妹湿地提携が結ばれて間もなく20年たちますが、この間、自治体交流から湿地保全の技術交流へ、さらに市民交流へと輪が広がってきました。今年は子供たちが参加できる機会を設け、交流が未来に繋がるよう期待しています。

### 3. 中央消防署 新東分署について

- 千歳町にありました中央消防署旧東分署と武佐支署を統合した新しい東分署が4月1日から稼働しています。
- 本施設は、将来の人口動態を見据えた中で、効率的な消防体制の構築並びに地域防災力の向上を図るために整備を進めてきたものです。  
配備車両は5両で、隊は救助隊、救急隊で構成されており、消防本部内では唯一、水難救助活動を行うチームを持っています。
- また、東分署は、釧路地域においては、消防本部と並び消防救急無線の基地局の一つになっており、災害時は、この通信機能を生かして消防の対策本部となる等、大規模災害時における本部の補完・バックアップ、代替機能を備えた施設となっています。
- 平時から常に大規模災害などの非常時に備えた災害に強いまちづくりに取り組み、政策プランの実践ビジョンの一つである「安心して暮らせる都市づくり」を進めてまいりたいと考えております。

## 2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 室蘭港等、道内各地で旅客船誘致の取り組みが行われていますが、誘致の決め手についてどうお考えですか。

(市長)

- ・ 北海道の自然を単に楽しむということだけではなく、地域のイベントとのマッチングが重要だと思います。3年前から1年間の行事予定を組むために、イベントの関係者に日程を早めに決めていただくようお願いしてきました。釧路には、霧フェスティバルやくしろ港まつり、釧路大漁どんぱく、リバーサイドフェスタ等がありますので、そうしたイベントの来年度、再来年度の日程を早めに決めていただくということです。日程が決まれば、それに合わせた入港もあるわけですから、釧路に来た時に、自然を見に行かない人でもイベントを見たり、参加したりすることができます。

旅客船のスケジュールが決まるのは一般的には1年前です。有名な船になると、2年前からクルーズの企画に入るとのことですので、そうした決め方に合わせてPRを行ってきました。今回のクルーズでは釧路大漁どんぱく花火と三陸復興国立公園クルーズという、釧路のイベントが名称になっているクルーズもありますので、

2年前のそうした取り組みが結びついたと思います。これまでの活動が一定の効果が出てきたと思います。こうしたことをしっかり進め、良い印象を与えることによって、リピーターになると思います。

(質問)

- ・ 旅客船の最近の入港実績について教えてください。また、毎年来てもらうための取り組みについてはどうお考えですか。

(市長)

- ・ 平成22年度、23年度はともに2隻で国内船でした。平成24年度は国内船2隻、外国船2隻の4隻でした。日本の船の場合、客層のターゲットもしっかり定めて、料金も高い設定となっています。一方、世界で見ると料金は安い設定であり、そのため、船は大型化するという流れになっています。

そうした状況を踏まえながら、日本と外国それぞれにPRしていくことが必要だと考えています。

(質問)

- ・ 旅客船が入港したり、昨年からは台湾の復興航空が釧路空港に就航したり、また高速道路の開通がせまってきている等の状況にあります。釧路圏への誘客を図るための取り組みとして、観光振興施策等についてどうお考えですか。

(市長)

- ・ 今後は、地域にあるインフラをいかに活用するかを考え、地域資源を磨き上げていくことが必要になってきます。そうした取り組みを早い段階から地域で考えていくことが大切だと思います。

高速道路については、平成27年度開通に向けて、いかにこれを地域で盛り上げていくかを考えることが大事です。例えば、夕張の時はどうだったか、あるいは一昨年の十勝圏の取り組みですとか、さまざま前例がありますので、各地での盛り上げ方や地域としての受け入れ態勢について、情報を収集しながら、準備を進めていきたいと思っています。ハードを生かすソフトの取り組みが、これからの大きな課題になると考えています。

釧路空港も釧路・東京線が1日7往復になりましたが、空港を有効活用するためにも、釧路空港ビルや庁内関係課で話をしていきながら、取り組みを進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・ そうした取り組みの今後の推進体制について、市役所以外の外部の方との連携についてはどうお考えですか。

(市長)

- ・ 民間団体等、外部の方とは、さまざまな分野で相談する場面があると思います。釧路市は拠点性の高い街ですから、国や道の機関、民間企業、市民団体等、さまざまな組織、団体があります。国や道と連携した取り組みをはじめ、民間等との連携など、市がコーディネートの役割を担いながら、各機関と連携した取り組みを積極的に進めていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 政府では地方公務員の給料を国家公務員並みに下げるよう言っています。先月末、岡山県庁では国家公務員並みの給料とするために7.8%下げるという方針を出しました。釧路市ではこれまでも職員給料については独自削減を行ってきていますが、今後、国からの要請を受けるのか受けないのかを含めて、人件費のカットについてどうお考えですか。

(市長)

- ・ 政府が地方公務員の給与費削減のために地方交付税を削減するという要請を行ったことについて、全国市長会、もちろん北海道市長会も含めてですが、きわめて遺憾であるとの声明を出しております。私は北海道市長会のメンバーであり、理事ですから、北海道市長会が表明した声明文の作成にも携わっておりました。国のこうした進め方については、いかななものかと強く申し上げたところです。その後については、そうしたやり方については行うべきものではないと、話をさせていただいているという状況であります。

それぞれの自治体では長い年月をかけて給料削減という取り組みを行ってきていますので、今回のようにスポット的に行うというものではないと思っています。

(質問)

- ・ 市民団体の「チャイルズエンジェル」の麒麟購入に向けた活動についてご感想をお聞かせください。

(市長)

- ・ 募金額は5,400万円にもなっておりまして、最終的には5,500万円に達するだろうと言われております。改めて団体の皆様のご尽力、またそうした活動に協力する市民力に心から感謝しております。

今回の団体に参加された皆様の個々の思いの中から、こうした取り組みがスタートして、これが全市に広まり、お祭りや学校祭といったさまざまなところで麒麟募金が行われたり、話題が出たりと、それが大きなうねりとなりました。そうした中で進めてこられた団体の皆様に改めて敬意を表します。最初に大きくPRし、企業の協力も得ながら、特に金利が麒麟購入につながる仕組みをつくったことはすごいことだと思います。わずか1年という短い期間の中で、成し遂げていただいた

ことに対する感謝の気持ちでいっぱいです。

今後、同団体では、「キリンがまちにやってくるプロジェクト」を立ち上げ、この盛り上げをさらに進めていくということです。また、新しい動物園プロジェクトを立ち上げて、動物園をどんどん盛り上げる民間を巻き込んだ仕組みの提案や相談をしていきたいとの話をいただいておりますので、今後も期待しているところです。

こうした市民力が釧路にはあるということをしつかりと踏まえ、この釧路が持つ市民力と連携し、さまざまなことにも取り組んでいけるようにしていきたいと思っております。他の分野でもこうした動きができるように繋げていきたいと思っています。